

2011年5月12日

<日本板硝子 2011年3月期(FY11) 決算説明会 主な質疑>

Q1 今期(FY12)の地震影響による営業利益60億円減少は大き過ぎる印象があります。

A1 現時点で考えられる範囲で予測したものです。従って、今後もアップデートしてまいります。

Q2 日系自動車メーカーの生産に関する前提はどうなっていますか？

A2 日本のOE(新車向け)は、上期は通常の50~60%の生産、つまり、40~50%の減産とみています。

Q3 「Autoのその他地域」は今後もこの利益水準の維持は可能ですか？

A3 自動車用ガラス事業は、常にコストダウンのプレッシャーを受けています。利益率を維持することだけでも大変なことです。一方、今後も南米には投資してまいります。新しい技術を導入することで、コストを削減してまいります。

Q4 ソーラーおよびタッチパネル向けガラスのFY11売上実績と伸び率、FY12の伸び率を教えてください。

A4 ソーラー全体で年30%の成長を予測し、FY11はその通りになりました。売上高については開示していませんが、FY10が250億円くらいという推測はリーズナブルと思います。ソーラーは、FY12も30%伸びると予想しています。

タッチパネルは、売上高はまだ小さく、生産能力の問題もあり伸び率は小幅となると思います。

Q5 FY12のCAPEXと減価償却費を教えてください。

A5 FY11のCAPEXは有形資産減価償却費(320億円)以下になりました。FY12のCAPEXはSMPに沿って増やしていきますが、有形資産減価償却費(FY11並)をやや上回る額になると思います。但し、あくまでもリーズナブルなレベルを維持してまいります。

Q6 説明資料の前提に記載の燃料価格指標は？

A.6 プレント原油です。(USD100/バレル)